



●病院理念●

社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成します

ホームページ <https://hospital.ompu.ac.jp/>

病院ホームページ

発行
大阪医科薬科大学病院

新任のご挨拶

病院長 勝間田 敬弘



このたび、病院長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年、大阪医科薬科大学病院は「コロナ禍」という社会的困難を乗り越えた後の新しい価値の創生に向けて邁進いたします。

現在、「スーパースマートホスピタル」そして「温かい病院」をコンセプトに新本館の建設を核とする病院全体の刷新と再編成が進行中です。

2022年7月に開院した病院本館A棟は、三次救急診療機能を有する救命救急センターと先進的ながん診療を提供するがん医療総合センター、さらに病棟専属のリハビリテーション室が配置された最新設備です。開設後の20ヵ月間に、A棟のみで17,000人を超える救急患者さんと9,000人を超える新入院患者さんを拝診いたしました。コロナ禍を通じて、24時間、365日、可能な限り社会の要請に応え続けた結果がそれ以前の取り組みと合わせて評価され、大阪医科薬科大学病院は2021年、2022年および2023年にNewsweek誌が発表したWorld Best Hospitalとして高い評価を受けています。

来たる2025年には、外来と7つの病棟、および小児・周産期部門を擁するB

棟が竣工、稼働いたします。そこでは、複数の診療科が融合した臓器別・疾患別センター外来、初診から退院後までの一貫した受診支援、さらに診察や会計の待ち時間を短縮する機能など、患者さんの受診をより快適にするための環境が整備されます。すでに、安全と診療効率の向上を目的とした最新技術の導入が開始され、「スマート」に高品質の医療を提供するための準備が進行中です。

医療の質は即ち医療者の質です。私たちは、患者さんに提供する医療の質の向上に日々取り組み続けています。患者さんと医療者、医療サービスそして医療情報が近づけば近づくほど、医療の質は高まります。患者さんへの気遣いと手厚い診療を通じて、患者さんに「寄り添う」温かい病院を目指します。日進月歩の医療の中でも守るべき核心は揺らぎません。私たちは、最新の技術や知見を取り入れながらも、患者さんと真摯に向き合い、個々の病状やご要望に合わせた医療を提供することを忘れません。これからも大阪医科薬科大学病院は、地域の皆様と手を携え、患者さんの健康を守るとともに、医療や社会の発展に貢献し続けます。

副院長 星賀 正明



このたび副院長を務めさせていただくことになりました循環器内科の星賀正明です。よろしく申し上げます。

主に医療安全管理を担当し、当院の理念であります「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供する」ことに全力で取り組んでまいります。

急速に進む高齢化とCOVID-19感染症の影響により、医療現場は大きく変化しています。さらに2022年7月の救命救急センター開設以降、病状がより重篤な患者さんを受け入れる機会が多くなっています。

このような環境変化の中、私たちは安全を最優先にしながら、患者さん一人

ひとりとの対話を大切に、職員一同で心からのサポートを提供していきたいと考えています。

目指すべきは、信頼に満ち、コミュニケーションを大切にする病院です。安全な医療環境の提供はもちろん、患者さんやご家族との深い信頼関係を築き上げることで、医療の質の本質的な向上を目指します。皆様が「温かい病院」と感じていただけるよう、誠心誠意、耳を傾け、安心していただける医療を心がけます。

勝間田敬弘新病院長の指導のもと、スタッフ一同と精進してまいりますので、引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副院長 鰐淵 昌彦



大阪医科薬科大学病院の副院長を拝命しました、脳神経外科・脳血管内治療科の鰐淵昌彦です。副院長として2

期目であり、病院内では総合的ながん医療の推進、広域の医療連携、医療プロフェッショナルの支援を担当させていただきます。がん医療総合センターを有する当院は、地域がん診療連携拠点病院、ならびにがんゲノム医療連携病院に指定されており、専門的ながん医療の提供、緩和ケアの充実、患者・家族などに対する在宅医療や相談支援、情報提供を行っています。広域

医療連携室は、紹介や逆紹介など各医療機関との円滑な連携を主として業務を行っており、当院の最新情報について積極的な広報活動もしています。医療プロフェッショナル支援室は、人間性豊かな高度医療人を育成するために、初期臨床研修終了後の専門医取得、さらに上級である認定医や指導医の取得に至るまでシームレスな支援を行っています。特定機能病院としての使命を全うし、安全かつ良質な温かい医療を提供できる病院を目指してまいります。何卒よろしく申し上げます。

副院長 金沢 徹文



この4月から副院長として2期目を務めることになりました精神神経科の金沢徹文です。医師の働き方改革担当

として今年度よりスタートする効率的な医師業務に向けた取り組みの一翼を担わせていただきます。本院では以前より勝間田敬弘新病院長を中心として、施設基準等の整備を完了していただきました。実際に走るようになることと様々な問題が出てくることは明らかですが、ぜひ皆様と力を合わせて患者さんが安心できる良質な医療を長く提供できる環境作りをお手伝いさせ

てもらいたいと考えています。また、業務改善推進委員会や医療DXに加えて温かい病院作りにも主として関与してまいります。主任教授となつては4年が過ぎますが、いまだ全主任教授の中で最も若い私にこのような重責を与えてくださっていることは、本院全体が新時代に向けた変化を望んでいる現れだと個人的に感じています。新病院長を始めとした先生方や病院全職員と一丸で精一杯仕事を続けていきます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

副院長 芦田 明



このたび副院長を拝命いたしました小児科の芦田明です。よろしく申し上げます。

診療管理担当として薬剤部の運営と新棟への外来・病棟部門の移転業務を担わせていただきます。大阪医科薬科大学病院は、現在、病院本館A棟が2022年7月に竣工し、すでに稼働しています。来年2025年には残る病院本館B棟も竣工予定で、病院本館が完成することになり、残りの病棟および外来機能が移転します。患者さんの安全を第一に診療機能を低下させることなく、円滑にB棟への機能移転が完了するよう、綿密な移転計画を立て、細

心の注意を払いながら努めていきたいと思っています。本院は高度先進医療を担う特定機能病院であり、常に最新の医療を提供するための薬剤調達が必要です。しかし、一方、近年、医療財政上の観点からスリムな薬剤管理を行うことが求められています。両者を両立させることはなかなか難しいことと考えますが、関連各署の協力を仰ぎながら、部署一丸となって職責を果たしていきたいと存じます。皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

副院長 李 相雄



2024年度より副院長を拝命しました李相雄です。

当院は特定機能病院として、高難度手術や新規治療を提供し、三島二次医療圏のがん診療連携拠点病院および災害拠点病院として、地域75万人の健康と暮らしを守る重要な役割を担っています。また、2022年7月には救命救急センターが始動し、地域救急医療の要としても機能しています。

そして今、私たちが目指しているのは「温かい病院」を実現することです。人工知能(AI)をはじめとする科学技術が急速に発展する現代にあっても、医療の中心は患者さんとその家族です。私たちは、情報の透明性をさらに高

め、患者さんが適切な治療を受けられるよう支援し、地域社会との関係を深め、医療と介護の連携を推進し、少子高齢社会における包括的なケアの提供を目指します。

当院の取り組みが地域の皆様や職員にとっての支えとなり、信頼され、選ばれる病院を目指していきます。質の高い医療を継続的に提供するとともに、超高齢社会に適した横断的協力体制による低侵襲な集学的治療の進展にも注力します。患者さん、その家族、そして地域社会から信頼される大阪医科薬科大学病院を実現するために、地域の皆様と共に成長し発展していくことを心から願っています。

新任のご挨拶

心臓血管外科 診療科長 大門 雅広



2024年4月1日付で心臓血管外科の診療科長を拝命いたしました。当科は日本の心臓血管外科領域では歴史が長く、心臓血管外科の黎明期を支えた施設の一つです。現在、先天性心疾患をはじめ、冠動脈疾患、心臓弁膜症、大動脈瘤などあらゆる心臓血管疾患に対応し、さらに大動脈瘤破裂や解離などの救急疾患も断らないことを原則にしております。心臓血管手術は一般にリスクが高く、身体への負担も大きな手術が多いのは事実ですが、様々な疾患に対応できる豊富な知識と経験を持ち合わせ、最新の設備と技術を用

い、さらには循環器内科医をはじめ、様々な医療スタッフとも連携し、患者さんが安心して治療を受けられる環境を整えております。患者さんのご希望やご意向をしっかりと聞き、最適な治療方法を共に考えてまいります。また大学病院として、皆様の健康をサポートするため循環器疾患に関する情報の発信にも力を入れております。安心して病院にお越しになり、お気軽にご相談ください。

整形外科 診療科長 大槻 周平



2024年4月1日付で整形外科の診療科長を拝命いたしました。当科は、先進的な膝関節温存手術、肩腱板損傷に対するオリジナルの再建手術、ロボット、ナビゲーションを駆使した脊椎手術、正確性の高い人工関節手術、悪性を含む骨軟部腫瘍、足部矯正手術など、高齢者の変性疾患から若者のスポーツ外傷、そして先天性運動器疾患まで、経験豊富な専門医スタッフが対応し

ております。また、整形外科は労働災害や交通外傷など社会的需要の高い診療科でもあり、当院救急医療部や三島南病院と連携をとりながら地域社会に根ざした医療をより一層すすめます。今後もより多くの誠実な心を持つ医師の育成に努め、皆様に信頼される整形外科を目指してまいります。

肝疾患センター 肝疾患のための料理教室～脂肪肝編～

2023年12月16日高槻中学・高校にて料理教室を実施しました。患者さん・ご家族16名にご参加いただきました。テーマは『地中海式和食』で抗酸化作用のあるオリーブオイルや魚介類、和の食材の良いとこどりのメニューとなっております。

Menu

- 麦ご飯
- チキンステーキ～和風トマトソース～(右記にメニュー掲載)
 <栄養量 1人前>
 エネルギー:248kcal
 たんぱく質:19.2g 脂質:15.8g 炭水化物:5.4g
 食塩相当量:1.5g
- キノコソテー(右記にメニュー掲載)
- 蛸と水菜のサラダ～アンチョビポテト添え～
- 豆乳味噌スープ
- 季節の果物(イチゴ)



材料(4人分)

- チキンステーキ
 - 鶏もも皮付き…400g
 - 塩…0.2g(鶏100gに対して塩2つまみ程度)
 - オリーブオイル…3g
- トマトソース
 - ホールトマト缶…1/2缶
 - 塩…少々
 - 味噌…大さじ1/2
 - ケチャップ…大さじ2
 - 濃口醤油…小さじ1
- キノコソテー
 - マッシュルーム…8個
 - エリンギ…120g
 - 濃口醤油…大さじ1
 - 塩…少々
 - オリーブオイル…2g
 - イタリアンパセリ…適量

作り方

- 簡単トマトソース
 - ①ホールトマトを軽く潰しピューレ状にして、ケチャップを合わせて煮詰める
 - ②ある程度煮詰まったら味噌と醤油で味を調える
 - チキンステーキ
 - ①鶏に塩を振る
 - ②フライパンにオリーブオイルをひき、皮目を下にして重しをして焼く
 - ③皮目がパリッと焼けたら裏返して火が通るまで焼く
 - キノコソテー
 - ①マッシュルームは食べやすい大きさ(半分が1/4)に切る
 - ②エリンギも食感が残る程度に切る
 - ③適量のパセリをみじん切にしておく
 - ④フライパンにオリーブオイルをひき、塩少々でキノコを炒める
 - ⑤仕上げに醤油で味付けをし、刻んだパセリを振りかけて完成
- ※食べる直前にトマトソースを加熱し、お皿にソースを盛り付け焼いた鶏肉とキノコソテーとパセリを盛り付け完成



令和6年能登半島地震 被災地への医療支援について

2024年1月1日に石川県能登半島を震源に発生した地震で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

当院では、厚生労働省DMAT事務局ほか、各関係団体からの要請に基づき、医療従事者を被災地へ派遣し必要な医療支援を行ってまいりました。

当院は、災害拠点病院に指定されており、DMAT(災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Team)等の医療従事者を被災地に派遣することのほか、近隣で災害が発生した際には、多数傷病者の受け入れを行うとともに、被災地外への傷病者搬送の役割を担うこととなります。当院では有事に際して迅速に対応できるよう、引き続き院内の防災体制の強化を図ります。

DMATの派遣

厚生労働省DMAT事務局からのDMAT隊員の派遣要請を受け、以下の期間、金沢市内の活動拠点本部へDMATを派遣しました。

- 第1次隊:1月10日～14日
- 第2次隊:1月24日～27日
- 第3次隊:1月27日～30日

金沢医科大学病院への看護師派遣

日本私立医科大学協会からの派遣依頼を受け、金沢医科大学病院へ1月15日～17日の期間、看護師を派遣しました。

災害支援ナースの活動について

公益社団法人日本看護協会からの派遣要請を受け、以下の期間、災害支援ナースとして看護師を派遣しました。

- 1月12日～15日
- 1月30日～2月2日



DMORTの派遣

一般社団法人日本DMORTからの要請を受け、1月11日～14日の期間、精神看護専門看護師を派遣しました。

被災地で災害死亡者家族への支援を行います。

※DMORT(ディモート)とはDisaster Mortuary Operational Response Teamの略で「災害死亡者家族支援チーム」と訳しています。

JRATの活動について

日本災害リハビリテーション支援協会の「初動対応チーム隊員」として登録している理学療法士を派遣しました。